

北陸信越地方交通審議会答申

北陸信越地域（新潟県、長野県、富山県及び石川県の地域）におけるおおむね10年後の公共交通のあるべき姿について

「未来の日記」

1. 「未来の日記」の概要

この「未来の日記」では、旅行代理店に勤務する主人公とその一家をはじめとする登場人物たちの日常生活を、現在及びおおむね10年後（答申の目標年次）にわけ、日記風に描くことにより、北陸信越地域における公共交通の現状や課題とその目指すべき方向を記述するものです。

(1) 登場人物紹介（年齢は平成17（2005）年現在）

◆主人公一家（新潟市在住）

越 光（41）：大手旅行代理店新潟支社に勤務（課長）。その後、東京本社勤務を経て、10年後に支店長となって新潟へ復帰。

越いぶき（40）：現在は専業主婦。大学では社会学を専攻。父親の影響から女性には珍しく鉄道好き。

越 実（13）：中学1年生。10年後は晴れて東京の大学を卒業し、新潟市内の銀行に勤務。

越みずほ（ 9）：小学3年生。10年後は大学で経済学部在籍。

◆主人公の母（石川県輪島市内の中山間地域在住）

越 スズ（65）：夫の仕事を長らく支えてきたが、体調を崩し、車椅子に頼る生活に。

◆主人公の兄世帯（金沢市在住）

金澤兼六（43）：大学では電子工学を専攻、その後、金沢市内の電子機器メーカーに勤務。父親に似て職人気質、開発畑一筋。

金澤力ガ（42）：金沢市内の中学校で数学の教鞭をとる。

金澤わくら（14）：中学2年生。理科系の両親の血を引く。10年後は大学院で薬学を専攻。

◆主人公の妻の父（長野市在住）

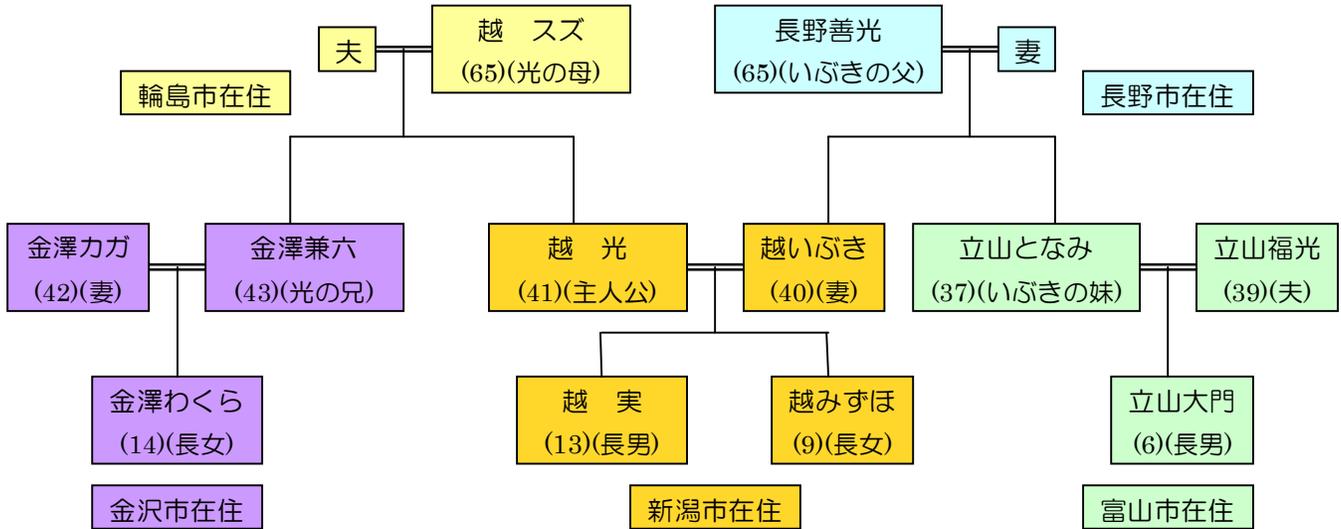
長野善光（65）：地元の鉄道会社で長らく運転士を務め、定年退職後は趣味で蕎麦を栽培。特技は蕎麦打ちと電車の運転だが、電車運転ゲームでは孫に勝てず、慚然としている。

◆主人公の妻の妹世帯（富山市在住）

立山となみ（37）：市内各所の音楽教室でピアノを教える。

立山福光（39）：富山市内の総合病院に勤務する内科医。

立山大門（ 6）：幼稚園児。10年後は高校でサッカー三昧、両親が勉強しなさいといても馬耳東風。



(2) あらすじ

「未来の日記」では、北陸信越地域の公共交通が現在抱える課題と解決の方向性を概ね以下のような構成と内容により、記述しています。

【命題Ⅰ】

少子高齢化、経済低成長が進展し、定住人口の減少又は横ばいが見込まれる中、地域の活力を高め、交流人口の増大に資するため、公共交通はどのような方向を目指すべきか。

(テーマ1)

北陸信越地域の活性化、地域間連携や観光交流の促進のための公共交通のあり方

| | 平成17(2005)年(現在) | 平成27(2015)年(未来) |
|------|--|---|
| 幹線交通 | (1ページ) 主人公は、兄から、海外の取引先の接待として、北陸信越地域での旅行のプランニングを頼まれます。しかしながら、公共交通インフラの脆弱さや利便性の低さにより、希望する行程と日程がなかなか折り合いません。 | (4ページ) 政府の外客誘致施策が実り、北陸信越地域にも海外からの観光客が増加しています。主人公は、新規顧客獲得のため中国を訪れ、現地の旅行業者に北陸信越地域の魅力とそれを支える充実した公共交通サービスをPRします。 |
| 二次交通 | (6ページ) 出張先の金沢に向かう途中、主人公が乗った空港連絡バスは渋滞に巻き込まれます。車内で隣り合った乗客と二次交通問題について話し合います。 | (8ページ) 主人公は東京本社に勤務しています。ITをはじめ利便性が向上した公共交通のサービスを駆使して主人公がアレンジする旅行は顧客に好評です。そして、主人公は北陸信越支店長への異動の内示を受けます。 |

(テーマ2)

地域内交流を活性化させるため、公共交通はどのような方向を目指すべきか。

| 平成17(2005)年(現在) | 平成27(2015)年(未来) |
|--|--|
| (10ページ) 主人公の子供たちは、冬休み、従兄弟と一緒に、輪島市の主人公の両親宅へ遊びに行くことになりました。雪により電車が遅れるなど思わぬ難題が子供達を襲います。 | (12ページ) 主人公の一家が、兄一家とともに、石川の主人公の両親宅に集まりました。晩の宴席で、主人公の子供たちは、10年前の冬休みを思い出し、近頃の公共交通が便利になったことを改めて感じます。 |

【命題Ⅱ】

日常生活の足として公共交通が果たすべき役割とは何か。

| 平成17(2005)年(現在) | 平成27(2015)年(未来) |
|---|--|
| (14ページ) 主人公の妻は、石川の義母スズの通院の介助のため、新潟と能登の間を往復することになりました。その途中で富山の妹宅に一泊するのが習慣になっています。今日もまた、介助を終えて妹宅で妹と話し込んでいます。 | (12ページ) 主人公の母親スズは、10年前の骨折がもとで、その後車椅子生活となってしまいました。介護のため両親宅を訪れた主人公の義姉は、車椅子の介助をしながら公共交通の変化に驚きます。 |

【命題Ⅲ】

クルマ社会が進展している北陸信越地域において、公共交通とそれを補完する交通のありべき適切な役割分担・連携はどのようなものか。

| 平成17(2005)年(現在) | 平成27(2015)年(未来) |
|---|---|
| (18ページ) ある日曜日の午後、主人公一家は、買い物のため、自家用車で新潟市内のショッピングセンターへ向かっているところです。渋滞に巻き込まれた車内で、両親は、子供たちに公共交通と自家用車の共存の問題について語ります。 | (20ページ) 10年前と同じようなある日曜日、主人公一家は、久しぶりに外で夕食をとるために、デマンドバスで市内に向かうところです。バスを待つ間、公共交通と自家用車をめぐる状況の変化をそれぞれが語ります。 |

【命題Ⅳ】

『安心・安全・やさしい』交通の実現のために、公共交通が目指すべき方向性とはいかなるものか。

| 平成17（2005）年（現在） | 平成27（2015）年（未来） |
|---|---|
| <p>（22ページ）</p> <p>主人公一家は、長野の妻の実家に遊びに行き、元鉄道運転士の祖父と孫たちは鉄道シミュレーションゲームに興じています。ところが、実際の運転とゲームとでは勝手が違うのか、祖父はうまく操作できません。</p> | <p>（25ページ）</p> <p>主人公一家は、両親や兄弟の家族も含めて、一族総出で冬の温泉旅行に向かいました。行き先は長野県の〇〇温泉です。吹雪にも遅れない鉄道や車椅子の母も安心して移動できる交通環境にみな満足して、楽しい旅行がスタートしました。</p> |

2. 「未来の日記」

【命題Ⅰ】

少子高齢化、経済低成長が進展し、定住人口の減少又は横ばいが見込まれる中、地域の活力を高め、交流人口の増大に資するため、公共交通はどのような方向を目指すべきか。

(テーマ1)

北陸信越地域の活性化、地域間連携や観光交流促進のための公共交通のあり方

第1章 幹線交通

平成17(2005)年A月B日 晴

ある日の午後、主人公が勤めている新潟市内の旅行代理店に、一人の男性がふらりと入ってきました。

越 光「やあ、兄さん、突然どうしたんだい。」

金澤兼六「新潟市内の取引先に急用があってね。それに、出てきたついでにお前に頼みたいこともあったし。」

越 光「というと。」

金澤兼六「再来月、シンガポールの提携企業からお客さんを迎えることになったんだ。うちの工場を見てもらうのがメインの目的なんだけど、せっかくだから観光もしていってもらおうと思ってるんだ。で、その手配をお前に頼みたいんだよ。」

越 光「そりゃ、ありがとう。で、何日間の予定なんだい。」

金澤兼六「こっち(北陸信越)で過ごせるのは実質4日かな。で、途中で工場視察があるから、そのときは金沢にいられるようにしてもらいたいんだが。」

越 光「うーん、どこか見せたいところはあるの。」

金澤兼六「とにかくいろんなところを見たいと言ってるんだ。それで、俺もちょっと候補地をリストアップしてみたんだが、やっぱり、うちの製品がどれだけ良い環境で造られているかということアピールしたいから、テーマは「北陸信越の自然」ということで。北から順に行くと、新潟では笹川流れだろ、ちょうど季節だから村上のイヨボヤ会館で鮭の産卵を見てもらおう。それに佐渡。越後の酒の仕込みは見学できるかな。親不知子不知を通して、富山では滑川のほたるいかミュージアムに行って、それから立山黒部アルペンルートかな。うちの会社の地元石川では、兼六園だろ、あとは山中塗か輪島塗の工房・・・ついでに奥能登観光だな。そして、長野では軽井沢に行って、野沢か他の温

現在

泉で大宴会をやって、最後は上高地かね。」

北陸信越地域には、それぞれ良好な自然環境や貴重な文化歴史に基づく様々な観光資源が豊富に存在しています。



佐 渡 島



松 本 城



五 箇 山



和 倉 温 泉

越 光「4日で回ってもらおうというのはあまりに無茶だよ。1週間でも厳しいよ。」

金澤兼六「だめか。旅行会社のお前に相談すれば何とかなると思ったんだが。」

越 光「そういう問題じゃないよ。飛行機、鉄道、貸切バスを組み合わせても4日は厳しいなあ。この地域は、横に動くよりも東京に行くほうが早いくらいなんだよ。」

金澤兼六「しょうがないなあ。だけど、何が問題なんだい？ほら、普段は車ばかりだから、電車等の事情には疎いんだよね。」

越 光「一言で言うのは難しいけど、まずやはり高速交通網が充実してないんだ。新潟と長野は新幹線で東京と結ばれているけど、地域の中を移動するのは結構時間がかかるんだよ。金沢と富山の間は例外だけど、県庁所在地の間の移動が大変なんだ。東京までだったらどの県からも2時間程度で行けるのにね。東京や大阪からの時間を短縮しようと、飛行機を使うとしても、小松空港や松本空港を利用すると、いずれも県庁所在地から空港まで40分以上かかるしね。」

金澤兼六「そうか、以前仕事で仙台から秋田へ回ったとき、秋田新幹線のおかげですいぶん早く行けたけど、そういう高速の交通手段が不足しているということだな。北陸新幹線ができれば横の移動が便利になるんだろうけど、今はまだということなんだな。」

越 光「そういうことだね。北陸新幹線ができれば、長野等の新幹線沿線の地域や上越新幹線も利用してもらって、多くのお客さんが観光地を見てもらいたいけどね。」

金澤兼六「そうだよなあ。で、他にどんな問題があるんだい？」

越 光「あと、空港があちこちに整備されたけれども、国内利用がほとんどで、海外から直接こっちに来る人はまだ少ないんじゃないかな。今回のお客さんはシンガポールだけ？シンガポールは直行便も無いし。それに、空港の利用客が伸びても、空港から都心部へのアクセスがもっと充実しないとお客さんは満足しないよね。」

金澤兼六「そうか、言われてみれば、この地域では、空港からのアクセス鉄道がないね。
どこか1つの空港にでも電車が乗り入れても良さそうに思えるんだけどなあ。」

越 光「うーん、そうあって欲しいところだけど、採算面で難しいんじゃないかなあ。現実問題として、地方空港で鉄道アクセスが整備されているのは、北海道の新千歳と、九州の福岡、宮崎、それに沖縄の那覇ぐらいなものだからね。

それはそうと、この地域では、昔に比べれば高速道路が整備されたので、高速バスを利用すればいくらかは時間の短縮になるけど、それにしたって、コースの設定は難しいなあ。」

金澤兼六「わかったよ。じゃあ、とりあえず俺のメモを置いていくから、できる限り多くの観光地を回れる計画をつくって、明日会社に FAX してくれよ。いいか、盛りだくさんだぞ。おっと、そろそろ電車の時間だ。じゃ、またな！」

越 光「あーあ、行っちゃったよ。相変わらずだな、兄さんも・・・って、こんな注文、無茶だよな。」

平成27（2015）年C月D日 晴

10年ほど前から始まった外客誘致施策が実り、北陸信越地域にも海外からの観光客が増えてきました。そこで、主人公は、北京の観光業者 李 玄德氏を訪ね、北陸信越地域の魅力をPRし、新規の顧客開拓に乗り出すことにしました。商談は無事に終わり、主人公は李氏から夕食に招かれました。

李玄德「今日は越さんにお目にかかって、いろんなこととお聞きすることができ、大変実りが多かったと感じています。ところで、この地域では公共交通が便利になったと言っておりましたが、具体的にはどのようなものなんでしょうか。」

越 光「そうですね、まず何と言っても北陸新幹線が開業したことが大きいと思います。これまで北陸地方から東京までは、鉄道ですと乗り継ぎを含めて3時間以上かかっていたんですが、乗り継ぎなしでほぼ2時間に短縮されるそうですから。」

李玄德「おお、シンカンセンですね。私も一度乗ってみたいと思っています。」

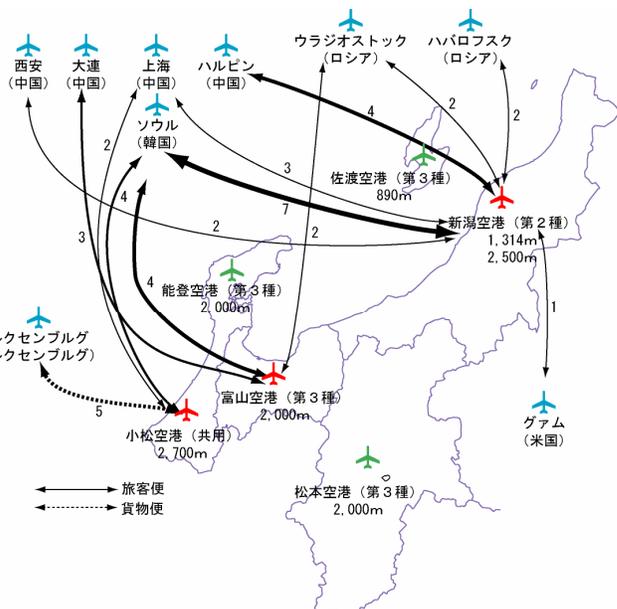
越 光「この地域には、北陸新幹線と上越新幹線がありまして、新幹線に乗ることで移動が楽になりました。また、これらの新幹線に接続する在来線鉄道も、地元のニーズを可能な限り汲み取ってダイヤを改善し、フリークエント運転等に努めています。ダイヤが便利になったり、鉄道会社とバス会社等が提携して新幹線周遊フリー切符を発売したこともあって、この地域内の移動が10年前と比べて大変便利になりました。」

李玄德「なるほど。ところで、ツアーを企画するとした場合、利用できる空港はどうなっていますか。また、空港や駅へのアクセスはどんな具合ですか。」

越 光「北陸信越地域では、新潟、富山、小松、能登の4空港に中国やロシア等からの直行便が就航しておりまして、新潟イン、富山・小松アウト等のようなツアー



整備が進む北陸新幹線（長野県中野市）
資料：長野県土木部監理課



北陸信越地域の空港に就航する国際航空定期便及び便数
（1週間当たりの往復便数 平成17年2月現在）

一の計画ができます。また、中部国際空港や東海北陸自動車道ができたので、名古屋で入国してから、この地域を訪れる観光客が10年前と比べて大幅に増えました。これらの空港から東京、韓国等へ飛ぶこともできますから、わが国の日本海側ゲートウェイとしてお使いいただけると思います。

また、各空港から都心部や主要観光地へは、直通リムジンバスや乗合タクシーが多数運行されています。鉄道の主要ターミナルにつきましても、新幹線や特急電車とローカル線電車との接続時間が大幅に改善され、また、バスや乗合タクシーがきめ細かく運行されています。」

李玄徳「それは助かります。では、ずいぶん海外からの観光客が増えたんじゃないですか。」

越 光「ええ、この地域には、美しい自然だけでなく、街に暮らす住民の手で古い街並みをよみがえらせ、歩いて楽しい場所が多くできた気がします。また、10年前に新潟で地震が起き、一時的に観光客が減少しましたが、地域が一体となって地域の魅力の向上を図ったため、昔に比べ、多くの観光客がこの地域を訪れるようになりました。

われわれ観光業者としましても、多くのお客様にリピーターとなっていただけるよう、これまで知られてなかったような観光資源の発掘や各地の魅力をさまざまな形で発信するようにしています。それだけでなく、自治体や経済界の方と一緒に海外に向いて、積極的に我々の地域に関する情報を発信しておりますから、そうした営業努力の成果が出たのかもしれない。この地域では、海外からのお客様は、ぐるりと地域を一周するような、広域的な周遊観光を楽しまれる方が多いですね。」

李玄徳「なるほど。それから、これは個人的な興味からお尋ねするのですが、会津や酒田というところは、北陸信越地域からアクセスしやすいのでしょうか。実は以前から日本の歴史、とくに江戸時代や戊辰戦争といった日本の歴史に興味をもっておりました。」

越 光「そうですね。いずれも新潟から鉄道や高速バスで行くことができます。最近、「新潟から先」の旅をする人が増え、それに合わせて公共交通による移動手段が充実したおかげで、周辺の地域へのアクセスが便利になり、多くの観光客が足を運んでいます。」

李玄徳「うーん、なるほど。ああ、老酒と前菜が来ました。」

越 光「この老酒と前菜の材料は中国から輸入し、直江津の港で陸揚げされたものだそうですよ。中国の荷主と日本の物流事業者が提携して、港や鉄道、高速道路を利用して、中国から新鮮な食材が北陸信越地域に多く入ってくるようになりました。」

李玄徳「じゃあ、私たちの事業の発展を祈って乾杯しましょう。乾杯！」

越 光「乾杯！」

第2章 二次交通

平成17（2005）年E月F日 曇りのち晴

主人公は東京へ出張し、そこからさらに飛行機で金沢へ向かいました。小松空港に到着し、東京便が着いてすぐに出発する金沢駅行きの特急バスに乗り込むことができました。主人公は、ほぼ座席の埋まったバスの車内で、話し好きの男性と隣り合わせになりました。

運転手「みなさま、ご乗車ありがとうございます。このバスはスーパー特急金沢駅行きです。えー、今日は、金沢駅付近で事故がありました関係で、途中渋滞による遅れが予想されます。お急ぎのところ恐れ入りますが、予めご了承願います。」

隣の客「まあ、事故じゃあ仕方がないな。でも、トラックの追突事故一つあっただけで、空港からの移動で足止めを食らうようでは・・・何とかならんなかあ。（主人公に向かって）そちらさんはお仕事ですか。」

越 光「ええ。」

隣の客「私は、金沢に行って兼六園や武家屋敷を見て回ろうと楽しみにしておるんですが、その前にこうやって事故が起きて、なかなか前に進めないようなので、うんざりしますね。」

越 光「そうですね。」

隣の客「どんなお仕事をなさっているのですか？」



兼六園

越 光「旅行代理店に勤めています。」

隣の客「それじゃあ、交通のことにはお詳しいですね。そういうプロの目から見て、日本の公共交通はどうですか。空港からの移動でこんなに不自由なことになるんですかね。」

越 光「そうですね。空港や駅から市街地や観光地への交通を『二次交通』というんですけど、これに限れば、やはりまだ立ち遅れているといわざるを得ないと思います。」

隣の客「そういうもんですか。この前、能登空港を利用したんですが、あそこは便利でしたよ。料金の安い乗合タクシーがありましたよ。」

越 光「二次交通の重要さが言われるようになったのは最近のことです。ですから、逆に最近できた空港や駅では、例えば今おっしゃったのは能登空港や、東北新幹線の八戸駅周辺では、空港や駅ができると同時に、利用者の移動を考えた二次交通のサービスが充実しているのです。北陸信越地域でもっと多くの二次交通サービスが出るといいですね。」



能登空港ふるさとタクシー 資料：北陸信越運輸局

隣の客「でも、宮崎みたいに新たに空港アクセス鉄道ができたところもあるでしょう。」

越 光「そうですね。まあ、鉄道とまではいなくても、安くて、頻繁に、なるべく短時間で移動できる交通手段は充実させていかなければならないんでしょうが、そのためには投資が必要で、難しい問題ですね。」

隣の客「でも、放っておくと、利用者がどんどん減るんじゃないですか。」

越 光「そうですね。せっかく空港や駅があっても、そこからの移動が不便だと、観光であればそもそもそこに行きませんからね。」

隣の客「なるほどね。とすれば、地元も危機意識をもたにゃあならんということですか。」

越 光「そうですね。空港や駅からの移動手段がないので、観光地に行かない、観光地に客が来ないから移動手段が充実しない…ま、鶏と卵といいますか、堂々巡りといいますか、悩ましいところですね。それに、観光客が利用することは大事ですが、やはり地元の方にとっても使いやすいものでなければ、なかなか二次交通は充実しませんよね。」

隣の客「いやいや、ご高説ありがとうございます。しかし、本当に混んでいますな。さっきからノロノロ運転が続いてますね。」

越 光「ええ、私もちょっと時間が気になりはじめました。」

平成27（2015）年G月H日 晴

主人公は東京本社に勤めています。通例ですと、そろそろ転勤の時期なのですが…

本部長「やあ、越君、さっき〇〇社の社長がお見えになって、ずいぶんと丁寧なお礼を頂いたよ。君が手配してくれた旅行がなかなか好評だったようだが、どんなアレンジをしたんだい？」

越 光「はい。〇〇社長の奥様が、観劇のお仲間と北陸信越地域でおいしい魚を味わう旅行がしたいとおっしゃられまして、ただ、お仕着せのパックツアーでは面白くないから、全く自分たちだけで動くような内容にしてほしい、ただ、時刻表で見るのはあまり得意ではないから、その辺はよろしく、とおっしゃられまして。」

本部長「ふんふん、で、具体的には。」

越 光「1日目は、長野県を対象に発売されたフリー切符のご利用をお勧めしました。あれを使いますと、JR、しなの鉄道、長野電鉄、上田交通といった鉄道や県内のバス会社の乗り降りが自由ですし、博物館に行ったり土産物を買うときに、割引を受けることができます。それに何よりお値打ちということをご説明さしあげまして…」

本部長「ああ、あの切符は随分好評らしいね。よその地域で同じようなものはないのかという問い合わせもあるらしいからね。」

越 光「2日目は、列車で移動して、新潟県内の観光地を見て回りました。ご一行が7名ということもあったので、駅からは乗合タクシーで移動しました。昔はこんなサービスはなかったのですが、国の規制緩和等によって新しいサービスができたんで利用してもらいました。途中、予定に無かった観光地をじっくり散策したいとおっしゃり、タクシーを降りたのですが、携帯電話から予約する方法を教えまして、別の乗合タクシーをつかまえることができ、事無きを得ました。」



鉄道・バス会社の携帯サイト
資料：富山地方鉄道

本部長「それはご苦労だったね。」

越 光「でも、バス会社やタクシー会社の努力のおかげで、昔に比べますと、これまでの

鉄道やバスに加え、観光タクシーやデマンドバスのような選択肢が増えましたね。また、地域全体の二次交通の手段や運行状況を随時検索できるようなウェブサイトができ、しかも、携帯電話の端末でどこからでも調べることができるようになったんですから。ご一行の皆様にも、この検索サイトに随分喜んでおりました。」

本部長「ほうほう。」

越 光「ええ、ご一行の方の中に、以前によその観光地へいかれたときに、天候のせいで交通機関が運休し、相当ご苦労された方がいらっしゃったようで、その方に検索サイトをお教えしましたら、次はこのサイトを利用して、一人で時間を取って旅行しようとおっしゃってました。」

本部長「そうだな、これからは、個人旅行向けに、もっと交通情報を提供していかないとならないんだろうな。」

越 光「その辺を痛感してまして、現在、パソコンや携帯電話からインターネットに接続していただき、お客様番号や現在位置等を入力していただくと、その方にあったお勧めスポットや、公共交通の時刻表、遅延情報、バス等の乗り場案内を即座に提供できるようなシステム作りに取りかかっています。」

→ 「JR おでかけネット」へのアクセス方法

|  JR おでかけネット JR西日本提供 マイ・ダイヤ(時刻検索) e5489(インターネット予約) 5489サービス(電話予約) JR西日本列車運行情報 きっぷ・商品案内 JR西日本の主な車両 どこいこステーション(週末イベント情報) 花風景フォトレポート JR西日本ホテルズ(宿泊予約) 西日本JRバス 駅レンタカー 駅弁図鑑 JRおでかけネットについて | コンテンツ内容 |
|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ●マイ・ダイヤ(時刻検索) ●e5489(インターネット予約) ●5489サービス(電話予約) ●JR西日本列車運行情報 ●きっぷ・商品案内 ●JR西日本の主な車両 ●どこいこステーション(週末イベント情報) ●花風景フォトレポート ●JR西日本ホテルズ(宿泊予約) ●西日本JRバス ●駅レンタカー ●駅弁図鑑 ●JRおでかけネットについて |

資料：JR 西日本

本部長「そうか、でも、そんなプロジェクトの最中であって何だが、実は、君に異動の内示を持ってきたんだよ。」

越 光「はあ。」

本部長「君に北陸信越支店長をやらせてもらうことになったよ。〇〇社のケースもあるように、君は実にお客様の評判がいい。その辺を活かしてますます頑張ってくれ。さっきのプロジェクトは、本社と北陸信越支店の共同で進められるようにしておこう。モデルケースとして、北陸信越からスタートするのもいいだろう。」

越 光「ありがとうございます。」

本部長「今日はお祝いだ。一席設けたいから、夜は体を空けといてくれ。じゃあ。」

(テーマ2)

地域内交流を活性化させるため、公共交通はどのような方向性を目指すべきか。

平成17（2005）年1月J日 曇りのち雪

この年の冬休み、お正月を前に、主人公の子供たちは、金沢に住む従兄弟と一緒に、輪島に住む主人公の父親のもとへ一足先に行くことになりました。実とみずほを乗せた特急「北越」号は新潟駅を定刻に発車しました。

越みずほ「お兄ちゃん、このあとどういう風にするの？」

越 実「えーっと、この電車が金沢に着くのが11時29分だろ。で、金沢駅に着くとわくらちゃんがいるから、一緒に七尾まで行くんだ。お弁当は金沢の伯母さんが用意してくれるって。それからのと鉄道に乗り換えて穴水まで行って、輪島行きのバスに乗換えだって。輪島まで行けばおじいちゃんが迎えに来てくれるはずなんだけど。」

越みずほ「えー、そうすると、(指を折りながら)1、2、3回も乗り換えるの？お兄ちゃん、眠いから寝ててもいい？」

越 実「いいよ。金沢に着いたら起こしてやるよ。早起きしたしな。まったく…なんで、おじいさんの所ってこんなに遠いんだろう。3回乗り換えて7時間か。」

二人を乗せた電車は予定通りに金沢駅に着きました。従兄弟のわくらと一緒に、別の特急「サンダーバード」に乗り換えました。

金澤わくら「みのる君ってさ、おじいさんの所へ電車で行ったことがある？」

越 実「ううん、今日が初めて。お母さんはいつも電車で行こうと言うんだけど、お父さんは仕事で乗り飽きているし、車の方が楽だって言うんだ。」



ローカル線に乗り入れる特急列車 資料：JR 西日本

金澤わくら「そうかもしれない。私も時々電車で行くんだけど、金沢からだってお尻が痛くなるよ。新潟からだったらもっとよね。」

越 実「おい、この電車、何か遅くないか？外はすごい雪になってきたぞ。」

金澤わくら「あら、ほんと、すごい吹雪。特急なのにノロノロしてるよ。せっかく金沢駅ではすぐに乗り換えて出発できたのに・・・」

<車内アナウンス>

えー、お客様にご案内申し上げます。この列車は、ただいま大雪のため、徐行運転を行っております。このため、七尾到着は20分ほど遅れる見込みです。お急ぎのところ申し訳ありませんが…

金澤わくら「次の電車、七尾での乗り換え時間が14分なのに…でも、この地域は冬はよく雪が降るから、電車が遅れることがあるのよ。乗り換えるのは各駅停車だから、きっと特急が着くまで待っててくれるよ。」

越 実「この間うちのお父さんが仕事で金沢に行ったとき、やっぱり雪で電車がすごく遅れたんだって。だけど、乗り継ぎの電車は待っててくれたみたいだよ。」

金澤わくら「うーん、雪を降らせないようにはできないけど、せめて、何とか電車が遅れないようにならないのかな。それに、電車の本数だって少ないしね。」

越 実「まだ難しいみたいだよ。それに、電車の本数が少ないのも。もともと、富山、石川と新潟、長野はつながりが弱かったからだっていうし。」

特急電車は25分遅れで七尾に着きました。乗り継ぎの普通電車は待っていてくれたのですが、こちらも雪のため大幅に遅れ、3人は45分遅れで穴水に着きました。ところが。

金澤わくら「電車が遅れても、バスまでは待っててくれなかったみたいだね。次は…え？あと1時間以上待つのか？」

越みずほ「お兄ちゃん、あたし、疲れた〜」

越 実「駅の待合室で待ってよう。あれ、わくらちゃん、どこに行ったんだろう？おーい、わくらちゃん！」

平成27（2015）年K月L日 晴

正月、主人公一家が、兄一家と一緒に、石川の輪島にある主人公の実家に集まりました。晩の宴席では、おいしいお酒や料理に、昔の話に弾んでいます。

越 実「俺、ここへ来ると今でも10年前の冬休みのことを思い出すんだよ。雪で電車は遅れるし、バスは来ないし、おまけに穴水の駅でみずほが泣き出すし…」

金澤わくら「あははは、あの時は結構大変だったよね。そういえば、みのる君たち、今日も電車で来たんだっけ。」

越みずほ「そうなの。お母さんが普段おばあちゃんの介護でいつも車で来ているから、たまには電車に乗りたいということ。」

越 実「ああ。だけどびっくりしたよ。北陸新幹線ができたから、昔よりだいぶ早く着けるようになったね。新潟から上越に向かう列車は北陸新幹線のダイヤにスムーズに接続できるようになっていて、今日も、新潟から信越線に乗って、あまり待たずに、北陸新幹線に乗り換えることができ、随分便利になったよ。雪が降っても、線路の周りにはちゃんと除雪されていて、遅れなくなったし。」



鉄道の雪対策の例（ほくほく線十日町駅構内）
資料：北越急行

金澤わくら「私もそう思ったわ。でも、最近交通の便がよくなったと思わない？」

越 実「それぞれ。この間テレビで見てたらさ、2時間ドラマで『魚沼警視事件帳 越後信越白新線に仕組まれたトリックを暴け！』なんて番組をやっててさ、ああいう複雑な鉄道ダイヤを使った推理ものなんて、東京でしか作れないと思ってたからね。変な話、新潟も随分鉄道が便利になったんだなんて、改めて思ったわけ。」

金澤わくら「へえ、そうなんだ。そういえば、ゼミ合宿で越後湯沢に行ったんだけど、ほくほく線の車内ではイベントをやってて、思わず小さい頃のようにしゃいじゃったよ。」

越 実「銀行の支店担当者会議があって、上越新幹線に乗って東京に行くんだけど、車内では多くの観光客が乗って景色を楽しんでいるよ。

それに、支店長や上司のお供で富山や長野によく行くんだけど、どこの駅でもバスターミナルがすごく使いやすくなったよね。電車を降りてから、雨に濡れずにターミナルに行くことができるからね。」

越いぶき「あら、あなたたち、あまり高速バスは使わないのかしら。私はお友達とどこかに遊びに行ったり、長野の父のところに行ったりするときなんかよく使うけど。いろいろな路線が増えたから、これも便利よ。しかも、携帯電話でバスの到着予定時刻や空席情報、現在の走行位置の情報を見ることができるし、座席の予約も可能だよ。」

越スズ「さあさあ、久しぶりに大勢で囲んで食事をするということだから、張り切って食事をこしらえたのよ。どんどん食べてちょうだい。」

サービス提供時間 am5:00~pm23:45
(尚、予告なしで変更になる場合があります)

HOME Web予約サービス コンビニ決済 その他サービス ご注意事項

Welcome to J-BUS.co.jp

発車オ～ライネット

暖かい家をあなたへ
北海道家工房

ケータイからも予約できます!

操作方法 ■ アドレス転送

運賃の1%をポイント還元!

インターネット乗車票発券は日本旅行運営「パスぷらざ」を参照ください。

高速バス モバイルチケットサービス
モバイルチケットサービスの詳細は松下電器産業運営「ebbm」を参照ください。

資料：三共システム工房

【命題Ⅱ】

日常生活の足として公共交通が果たすべき役割とは何か。

平成17（2005）年M月N日 晴れ時々曇り

主人公の妻は、石川の義母の通院の介助をするため、新潟と能登との間を往復することになってしまいました。その途中で富山の妹宅に一泊するのが習慣になっています。今日もまた、介助を終えて、妹宅で妹と話しこんでいます。

立山となみ「姉さん、石川のお義母さんの具合はどうなの？」

越いぶき「木っ端につまづいたっていうから、はじめは大したことないと聞いてたんだけど、年をとっている分、骨がひつつきにくいんだって。それにお義母さん、どうも骨粗しょう症だったみたいで、余計に時間がかかっているの。だからなかなかリハビリに入れないらしく、ひょっとすると車椅子生活になるかもしれないの。」

立山となみ「姉さんも大変だ。」

越いぶき「仕方ないわよね。お義父さんも車の免許を持っていらっやらないし、田舎だから電車かバスでちょっと病院までって訳にもいかないしね。何せ鉄道やバスが採算が取れないから、何かにつけて、やれ廃止だ…路線縮小だ…という話になってるからね。」

立山福光「ただいま。」

立山となみ「あら、遅かったわね。」

越いぶき「福光さん、お帰りなさい。またお邪魔してます。」

立山福光「やあ、義姉さん、いらっやい。いやあ、山間部の公共交通がいかにも大変かということが改めてわかりましたよ。義姉さんが石川のお義母さんの通院介助に苦労されているか少しはわかりましたよ。検診車が故障しちゃって、とにかく帰るため、バスに乗ろうとしたんだ。何しろ、鉄道が通っていないから、バスに乗らなきゃいけないんだけど、これがすごく本数が少なく、それも終バスがとてつもなく早いんですよ。だからタクシーを呼んで、駅まで行こうとしたんだけど、こっちは医師、レントゲン技師等15人いるのに、タクシーが2台しかつかまらなくて…結局、役場と駅を何往復かしてもらったんですよ。」



金沢ふらっとバスの車椅子用ステップ
資料：北陸信越運輸局

越いぶき「さっきもそんな話をしてたのよ。どこもみんな同じみたいだね。規制緩和になったと思ったら、あっという間に民間のバスは撤退しちゃって、役場がバスを運行しているところが結構あるみたいよ。それに、お義母さんがもし車椅子生活になってしまえば、どうなるんだろう。最近のバスは何とか車椅子でも乗れるようにはなったんだけど、そういうバスはまだ少ないし。」

立山福光「今日行ったところも村営のバスでしたね。村の中だけならまだいいのかもしれないけれども、もう少し、鉄道やバスとの接続のあり方を見直してもらいたいものです。」

越いぶき「でも、これからは、見直してもらうために、私たちが積極的に地域の交通に対して意見を言わなければならないんでしょうね。例えば、ここの場所を通って欲しいとか、使いたいときに利用できるよう申し込むことができるような交通手段をつくって欲しいとか…そうすると、交通が不便な地域に住むお年寄りなんかでももう少し楽になるのにね。」

立山福光「オンデマンドの発想ですね。義姉さんだって、そういう交通手段が石川のお義母さんのところにもあれば、新潟と石川を往復する回数もだいぶすくなくなるんじゃないですか。」

立山となみ「あなた、お風呂が沸いたわよ。先に浸かっては？それともお食事？」

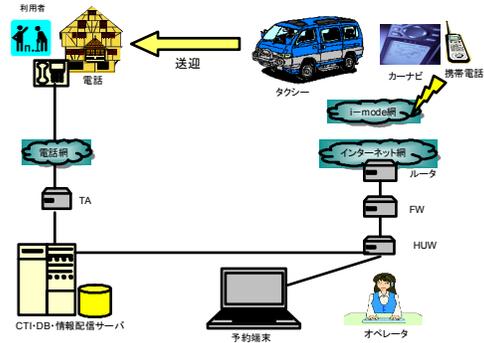
立山福光「まずひと風呂浴びてさっぱりしたいね。じゃあ、お義姉さん、ちょっと失礼します。」

平成27（2015）年〇月P日 晴

主人公の母親は、10年前の骨折がもとで、車椅子生活となってしまいました。介護のため母宅を訪れた主人公の義姉は、車椅子の介助をしながら公共交通の変化に驚きます。

金澤カガ「そろそろお義母さんの支度をしなきゃ。お義母さん、そろそろ乗合タクシーが来る時間ですよ。わくら、乗合タクシーを申し込んだ時間、9時40分で合っていたよね。」

金澤わくら「ええ、合っているわよ。おばあちゃん、車椅子を持ってきたから、こっちに移ってね。お母さん、おばあちゃんの足、支えててね。私、肩の方を支えるから。せーのっと。」



デマンドタクシー運行イメージ

資料：北陸信越運輸局

越スズ「わくらちゃん、ありがとう。」

金澤カガ「お義母さん、今日は乗合タクシーにしましたけど、病院に行くのはどの方法が一番楽なのかしら。」

越スズ「今はこんな田舎でも、デマンドバス、コミュニティバス、乗合タクシーといった病院へ行く方法ができたでしょ。タクシーだって、車椅子のまま乗れるワゴン車っていうのかしら。私が足の骨を折った10年前なんて、辛うじて車椅子でも乗れるバスが1日数本走っていただけだったから。今とは比べようもないわ。」



福祉タクシーの例

資料：(社) 小海町社会福祉協議会

金澤わくら「そうね。どこにあっても、誰でも公共交通で移動できるというのは大事なことだね。この前、学会で富山に行ったとき、富山港線がLRTになってただけど、乗ってたご年配の方も、これまで1時間に1本だったのが15分に1本となったうえに、終点でバスに接続するようになり、とっても便利になったって言ってたわよ。」

越スズ「私の学校時代のお友達が、今は佐渡に住んでいるの。時々手紙を貰うと、あっちでも島の中のバスが随分と便利になったみたいなのが書いてあったわよ。朝夕は小学生の送り迎えのためにスクールバスを走らせているんだけど、日中は買い物や通院のために利用できるし、土日には観光客用に走っているそうだよ。市もスクールバスとは別に路線バスを走らせなくてすむとって、余計にお金を出さなくていいと言ってるそうだね。あと、ボランティアの人たちが、自家用車を使って、病院まで運んでくれるそう

だよ。

佐渡を訪れる観光客が少なくなり、一時は随分と船に乗る人が減ったそうだけど、島の暮らしも守らなきゃっていうんで、島中みんなで観光客を集める活動をしているそうだよ。」

金澤カガ「そうですってね。新潟の光さんが旅行のお仕事をされているから、いろいろそういう話を聞きますけど、どこの県でも、そのまま放っておいたら地方のバスはどんどん廃止や本数の減少になってしまうから、計画の案を公表したり、アンケートを行って地元住民の声も聞きながら、少しでも路線を残せるようにと、努力しているみたいだよ。」



交通計画策定への市民参加

資料：名古屋市（なごや交通ワークショップ）

金澤わくら「バスだけでなく、地方の鉄道も同じように悩みを抱えており、お客さんの意見を聞いたり、寄付を募っていろいろと工夫しているようだよ。意見を聞くだけでなく、車両更新に合わせてスピードアップを図ったり、事故や天候でなるべく遅れや運休が出ないように地上の施設の整備や人員配置もやって努力しているけどね。」

金澤カガ「そういうことをやってるんだ。だから、みんなの意見を聞いて、お義母さんの家の周りでも、デマンドバスや乗合タクシー等いろいろ走らせているんだね。この間聞いた話では、利用客の少ないバス路線で、お客を乗せながら宅配便の業務も行うといったところもあるそうですよ。」

越スズ「そうかい。いろんな話があって、年寄りには難しいわ。と思うこともあるけど、とにかく便利にしてもらえるのはありがたいことだね。」

<インターホン>ピンポーン。

運転手「おはようございます。越さん。△△タクシーです。お迎えに参りました。」

金澤わくら「あ、おばあちゃん。乗合タクシーが来たわよ。行きましょう。」

運転手「はい、じゃあ、おばあちゃん、車に乗せますよ。えーと、××病院でしたね。今日は、途中で2人のおじいちゃんを乗せることにしていますから、宜しくお願いします。」

金澤カガ「いってらっしゃい！」

【命題Ⅲ】

クルマ社会が進展している北陸信越地域において、公共交通とそれを補完する交通のあるべき適切な役割分担・連携はどのようなものか。

平成17（2005）年Q月R日 晴

ある日曜日の午後、主人公一家は、買い物のため、自家用車で新潟市内のショッピングセンターへ向かっていたところでしたが、渋滞に巻き込まれました。退屈のぎで家族みんなで会話しています。

越 光「やれやれ、また赤信号だ。相変わらずこの道は混むね。」

越 実「どうして道路って、いつも混むの？」

越いぶき「それはね、バスや電車を使うよりも、自家用車を使った方が便利だといって、みんながどんどん使うようになってしまったの。それで、道路がさばける車の量より、実際に走っている車の量の方が多くなってしまったからなの。」

越みずほ「みんなが同じ時間に出かけるからいけないんじゃないの。人と時間をずらせばいいのに。」

越 光「うん、それはある意味では正しいね。だけど、例えば買い物に行こうとしたり、会社に行こうとしたりする時間は、誰でもほとんど一緒だよ。だから、時間をずらすと思って、なかなか難しいんだよ。」

越 実「それじゃ、みんなバスに乗ればいいのに。」

越いぶき「さっきも言ったけど、みんなが自家用車を使うようになると、今日みたいに道路が混むでしょう。そうすると、バスも渋滞の中を走らなければいけないから、どうしても時刻表どおりには進めなくなるのね。」



新潟市内の通勤風景

越 実「だからお父さんも会社には車で行くんだ！」

越 光「うん、それもひとつの理由だけど、もうひとつ、家の近所のバスは夜遅くまで走ってないでしょ。残業が多いから間に合わないんだ。」

越みずほ「ふーん、そうなんだ。でも、みんなが使ってそれで便利になったらいいんじゃないの。」

越 光「そうとばかりは言えないよ。自家用車がどんどん増えて渋滞もひどくなると、実はみんなすごい損をしてるんだよ。例えば、朝お父さんが会社に行くのに、道がすいていけば20分で着くのに、朝は混んでいるから1時間かかってしまうんだ。そうすると、お父さんは毎日40分も損しているんだ。ちょっと難しいけど、お父さんのようなサラリーマンの場合、1分あたりにどれだけ仕事をできるかをお金に換算すると、50円位と言われるんだよね。だから、40分損すると、毎日、2000円も損してるということになるんだよ。損をするのはお父さんと同じように車で通勤する人はみんな損をすることになるだろう。そうすると、1年間で何億円というお金が消えていくのと同じことになるんだよ。」

越みずほ「渋滞だけで何億も？だったら道路を増やせばいいんじゃないの？」

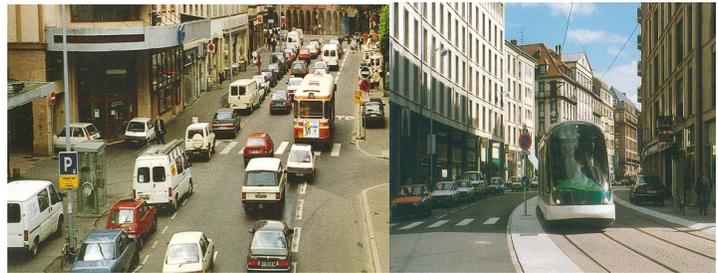
越 光「そうできればいいんだろうけど、道路をつくるには時間もお金もかかるんだよ。それに、道路を増やしたとしても、車はどうしても排気ガスを出すから、車の数が多いと、それだけ排気ガスの量が増えるから、空気がどうしても汚れてしまうの。」

越みずほ「そっか、さっきはみんな自家用車を使えば良いと言ったけど、場所や目的によってはバスや電車を使った方がいいんだ。」

越 光「そうだねえ。アメリカやヨーロッパでは、なるべくみんなバスや電車を使いましょうという運動が盛んになって、LRTという新しい路面電車が整備されて、道路がすいぶん混まなくなったそうだよ。」

越いぶき「日本でもそんな風になる
ときが来るのかしら。いいけど、
早くしないとタイムサービスが終
わっちゃうわよ！」

越 光「そんなこと言っても、さっき
から全然前に進めないんだよ…」



LRT 導入前のストラスブール市街地 LRT 導入後のストラスブール市街地

資料：The Strasbourg Urban Community

未来

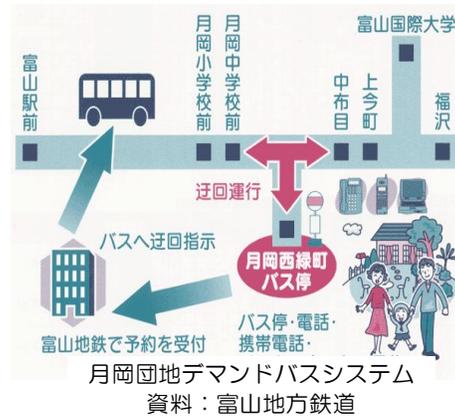
平成27（2015）年S月T日 晴

10年前と同じようなとある日曜日、主人公一家は、久しぶりに外で夕食をとるために市内に向かうところです。ただし、今度はバスで外出です。

越いぶき「デマンドバスを申し込んだから、20分後にはバスが来るわよ。」

越 光「いやぁ、10年前には繁華街までバスで行こうという気にならなかったからね。それが、今では、こっちが乗りたいときにバス停まで来てくれるようになったものだから、安心してお酒が飲めるし、随分と時代が変わったものだ。」

越 実「学生のように、名古屋や大阪へ旅行に行った時には、先進的なバス路線が整備されていて、結構便利だと思ったけど、今では、新潟でも同じようなバスが走っているからね。」



越いぶき「普段のお買い物をバスで行くようになるなんて、思わなかったわ。昔はすぐ自家用車を使って行ってたけど、今は街の中心部ならバスで行けるようになったよね。バス専用レーンのカラー舗装がされたり、路上駐車取締りが随分と厳しくなったからなんだろうね。」



基幹バスシステム
資料：名古屋市交通局

越 実「そうだね。僕も昔は通勤で苦労したけど、今は〇〇駅まで車で行って、パークアンドライドでJRに乗っていくからね。会社まで20分、混雑知らずだよ。僕の友達も、旅行するときには、それまで車で行ってたけど、今は新潟駅で車を止めて、新幹線で移動すると言ってたな。」

越 実「金沢のおじさんが言ってたけど、金沢でもバスが随分便利になったんだってね。」

越 光「ああ、あそこでは、以前から自家用車規制を進めていたからな。よその町では、家から最寄りの幹線道路まで小型のデマンドバスが運行し、待ち時間無しで乗り換えて駅のターミナルまで大型バスが走っているそうだよ。」

越みずほ「あと、富山のおばさんも言ってたけど、あっちでも、平日はショッピングセンターの駐車場に車を止めて、そこからバスに乗り換える人が増えたんですってね。」

越 光「自家用車と公共交通のそれぞれの良いところを取り入れて、新しいシステムができてるんだね。普段、仕事中に街中を移動していても、本当に車が減ったと思うよ。それに、父さんなんか、会社で車を使うときは、電気自動車を皆で使い回して、利用したいときに自分の車のように使うようにしてるんだ。」

越 実「あと、変わったと言えば、信濃川を走る水上バスも便利らしいね。僕の友達であるウォーターシャトルを使って通勤しているのが何人かいるが、やはり渋滞知らずで、おまけに水の上を進むから、朝から気分がいいそうだよ。」

主人公の携帯電話にメールが入りました。石川に住む主人公のお母さんからです。

越 光「お袋からメールだ。コミュニティバスで出かけるところだ。写真がついている。」

越いぶき「お母さんも車椅子生活になって、大変かと思っていたけれど、あのバス、車椅子でも簡単に乗れて便利なようね。」

越みずほ「大学へ行くバスもそうよ。今は車椅子で乗れないバスなんてないんじゃないかしら。それに、駅前の電車からバスの乗り継ぎもずいぶんと改善されたから、昔みたいにバスは面倒なんて思わなくなったわ。そろそろバスが来たようだね。さあ、行こう。」

【命題Ⅳ】

『安心・安全・やさしい』交通の実現のため、公共交通が目指すべき方向性とはいかなるものか。

平成17（2005）年U月V日 雨

主人公一家は、長野の妻の実家に遊びに行き、元鉄道運転士の祖父と孫たちは鉄道シミュレーションゲームに興じています。ところが、実際の運転とゲームとでは勝手が違うのか、祖父はうまく操作できません。

<ゲーム音>電車は急に、止まれませーん！

長野善光「あーあ、またやってしもうた。んー、
どうも思うように動いてくれん。」

立山大門「おじいちゃん、画面の数字を見ていない
んだもん。それじゃあ止まれないよ。ほんとに電
車の運転してたの？」



電車運転シミュレータの運転台
資料：交通文化振興財団

長野善光「ばかもん。わしは40年間無事故で、表彰だってされとるんじゃよ。」

越いぶき「お父さん、孫相手に何をむきになっているの？それよりゲームと実際の運転の
違いでも教えてあげたら。」

長野善光「そうじゃな。電車の止まり方は、その日の天気やお客さんの乗り具合に応じて、
微妙に違うんだよ。それに、本当の運転士は、ただきちんと電車を動かせば良いだけで
のうて、お客さんを安全に目的地までお連れするという崇高な使命があるんじゃな。」

越みずほ「安全って、そんなに大事なことなの？電車って、普通にしたらって安全じゃん？」

長野善光「そんなことはないぞ。例えば、踏み切りで立ち往生した車がいて、それに気づ
かずに電車が走ったらどうなる？大事故じゃろ。それから、近道をしようとしたり、踏
み切りでまだ電車は来ないだろうと思って線路内に入ってくる人が時々おる。これも、
電車が引っ掛けたら、その人はひとたまりもない。」

立山大門「じゃあ、その人は寝られないね。」

長野善光「もちろん交代はするがな。」

越 光「事故だけじゃないよ。昨年は北陸信越地域では、地震や台風により交通機関に大
きな影響が出たよね。特に新潟県中越地震では、新潟県に人やモノを運ぶために復旧作

業を行い、代わりの移動手段を確保したよね。こうした自然災害が突然起きた場合でも、乗客のいのちを守り、被害を最小限に食い止めるために、速やかに対応しなければならないよね。」

長野善光「そうそう、こうした災害に強い交通でないといけないなあ。それから、冬は雪が怖いな。もちろんラッセル車で除雪はしてくれるが、雪は凍るからな。じゃから、ポイント等の大切なところは、一晩中火を当てて暖めて、凍らないように番をする人もおるんじゃ。」

越みずほ「そんな人がいるの？大変なんだね。」

長野善光「あとは、雪崩、落石が怖い。そういう危険のあるようなところでは、スノーシェッド、ロックシェッドというて、雪崩や落石があっても電車が巻き込まれんようにしておるんじゃ。それに、事故は鉄道だけじゃないぞ。とにかく人のすることじゃ。絶対安全なんてことはありえんからな。」



ロータリー車による除雪 資料：北越急行

越いぶき「鉄道、バス、タクシー、船…乗り物にはいろいろあるけど、どれでも同じように、いつも誰もが安心して乗れるように、そこで働く人たちは細心の注意を払っているんだよ。」

越実「ゲームとは違うんだね。お父さん、今、安心して言ったけど、安全と安心して何が違うの？」

越光「うーん、ちょっと難しいけど、安全っていうのは、おじいちゃんが言ったみたいに、事故や運休がおきないような対策をすることだね。これに対して、安心っていうのは、…そうね、乗り物に乗る人が特に苦勞をしないですむってことかしら…」

立山大門「???わかんない。」

越光「例えば、体の弱いお年寄りには、駅の階段やバスの乗り降りが大変だっていうのはわかるよね。そんなお年寄りのために、駅にエレベーターやエスカレーターをつけてあげたり、電車やバスの床から段差をなくしてあげたりすると、ほっとするでしょ。今はお年寄りの話をしたけど、すべての人が気持ちよく鉄道やバスを使えるようにすれば、それだけ安心してその乗り物を使うことができるわよね。」

立山大門「なんとなくわかる気がする。」

長野善光「あと、乗り物を動かすときには、やさしいということも意識せにゃいかんのよ。」

立山大門「それはどういうこと？」

長野善光「みんなが自家用車を使うと、車の排気ガスはどんどん自然を壊していくんじゃ。ところが、バスや電車といった乗り物は、自家用車に比べると、自然への悪影響が小さいんじゃ。」

越 実「よく聞く『地球にやさしい』というときの『やさしい』だね。」

長野善光「そのとおりじゃよ。」

越みずほ「じゃあ、今度は、安全、安心に気をつけて、もう1回ゲームをやろうよ。」

長野善光「うーん、ゲームもいいが、そろそろ昼飯にせんかな。よし、今日はわしが朝打った蕎麦でも食べよう！」

平成27（2015）年W月X日 雪

主人公一家は、両親や兄弟の家族も含めて、一族総出で冬の温泉旅行に向かいました。行き先は長野県の〇〇温泉です。吹雪にも遅れない鉄道や車椅子の母も安心して移動できる交通環境にみな満足して、楽しい旅行がスタートしました。

全員が北陸新幹線長野駅に集合し、さあ、出発です。

越 光「いや、一族全員でこうして旅行できると思わなかったよ。母さんも出てこれてよかったね。」

越スズ「本当に。足の骨を折ってからは、もう旅行なんてできないと思ったわ。なのに、いつの間にか、電車もバスもみんな車椅子で簡単に乗り降りできるようになったんだねえ。それに、駅員さんの対応も親切だったしね。」



バリアフリー化された鉄道車両
資料：JR東海

立山福光「それに、北陸信越地域では、駅や空港では英語だけでなく、中国語、ハングル、ロシア語等、いろんな言葉の案内表示やアナウンスをするようになりましたね。これも時代ですか…」



複数の外国語が併記された案内標識の例

金澤わくら「おじさん、ターミナルへのエレベーター、エスカレーター、スロープ設置やノンステップバス、超低床型LRTの導入や乗合タクシーなんていうのが、お年寄りや体の不自由な方に対する方へのバリアフリーだとすれば、差し当たり外国人へのバリアフリー化ってとこかな。最近はユニバーサルデザインということで、お年寄りや外国人だけでなく、みんなが駅や空港を便利に利用できるようになっているよね。」



金澤カガ「そう言われてみればそうよね、ICカードを使うことで乗り継ぎの度に、切符を買ったり小銭を用意する必要がなくなったり、新幹線がそのまま在来線に乗り入れるフリーゲージトレインなんかは技術の勝利よね。」

金澤兼六「安全技術も進歩して、鉄道が冬でも遅れな

車椅子用エレベーター（松本駅）
資料：北陸信越運輸局

くなっただし、自家用車やトラックも安全になって、交通事故の死者も随分減ったよね。技術が発達したおかげで交通環境から自然環境まで改善されてきているんだけど、その陰では、大勢の人達が一生懸命安全を守ってくれているんだよね。」

越いぶき「そうね。10年前は、上高地とかごく限られたところでしか走っていなかったハイブリッドバスのような低公害車両が、今では当たり前のように街中を走るんですから。自家用車でも低公害車が普通になってきたし、大型トラックの大気汚染も随分緩和されて、街中の集配トラックも、CNGトラックをよく見かけるようになったね。」

越 光「それに、環境についていえば、地域を見渡してみても、グリーン経営を掲げる会社が増えてきたし、貨物の世界でも、荷主とトラック事業者がパートナーとして知恵を出し合い、効率的に物を運ぶようになったよ。地球環境を守ろうという気持ちをもつ人がずいぶん増えてきたからなんだけど、ついでに、燃料代も安くなったそうだよ。」

越いぶき「安全な運転をすることも、低公害車を買って環境にやさしくすることも、バリアフリーにすることも、みんなが人を思いやることが大事なんじゃないかしら。みんなの理解が進んでこそ、はじめて『安心・安全・やさしい』交通になるんじゃないかしら。」

全員「本当にね！」